

原子力リスク研究センター（NRRC） 第15回 技術会議 議事録

1. 日 時：2017年4月25日（火）09：30～12：40
2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室
3. 出席者（順不同、敬称略）
主査：横尾（NRRC）
委員：楨（北海道電力）、滝澤（東北電力；加藤代理）、
五十嵐・川村（東京電力HD）、伊原・中川（中部電力）、
福村（北陸電力；高橋代理）、原口・吉原（関西電力）、
林（中国電力）、川西（四国電力）、井上（九州電力；岡野代理）、
石坂（日本原電）、岡村（日本原燃）、鞍本（電源開発）、
四柳（東芝）、今野（日立GE）、山岸（三菱重工）、倉田（原安進）、
高橋・示野・座間・酒井・山本（NRRC）
オブザーバー：尾野（電事連）

4. 議事概要

(1) 2016年度 研究開発成果について

○NRRCより、2016年度研究成果として下記の項目について報告がなされた
<リスク評価分野>

1. 内部火災 PRA の手法開発
2. シビアアクシデント（SA）時の格納容器内熱流動評価
3. SA 時の核分裂生成物（FP）移行挙動に関する知見の拡充
4. 温度誘因蒸気発生器伝熱管破損（SGTR）に関する研究
5. 人間信頼性評価の手法開発
6. リスク情報に関する検討
7. リスクコミュニケーションに関する検討
8. レベル3PRAの我が国への適用性の検討
9. フィルタベント性能評価のための技術基盤整備
10. 既存の原子力発電所における PRA の実施

<自然外部事象分野>

1. 竜巻等極端気象の影響評価法と対策法の構築
2. 断層活動性評価手法の高精度化・合理化
3. 地震動策定手法の合理化
4. 津波に対するリスク・影響評価
5. 原子力機器の耐震安全性評価手法高度化

6. 自然外部事象に対する建屋・機器のフラジリティ評価
7. 地盤・構造物の耐震安全性評価手法高度化
8. 火山噴火リスク・影響評価

(主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員)

<既存の原子力発電所における PRA の実施>

- ◆資源エネルギー庁の公募研究として実施した「既存の原子力発電所における PRA の実施」については、実用化に向けて引き続き検討を進めてもらいたい。
- ◇今後も NRRC 内で研究を継続していきたいと考えており、引き続き伊方 3 号機のパイロットプロジェクトでの取り組みなどについて協力させていただきたい。

<地震動策定手法の合理化>

- ◆地震動策定手法に関して、断層の長さに関するエビデンスは揃いつつあるものの、断層の幅については議論が残っている。地下構造モデルの高度化に関する取り組みの成果なども加えて、断層の幅・長さの評価に関する信頼性を高めることを期待する。

(2) NRRCの活動状況について

- NRRCより、リスク情報を活用した意思決定プロセスの導入戦略骨子案について資料に基づき報告がなされた。

以上